

海外における質の高い公共デザインの創出手法

(研究期間：令和2年度)

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室

研究官 (博士(工学)) 岩本 一将 室長 大石 智弘



(キーワード) 公共デザイン、デザイン行政、景観、地域ビジョン、事業デザイン

3.

豊かで暮らしやすい地域・環境を創る研究

1. はじめに

近年、各地の地方公共団体で多様なデザイン行政の取組が展開される一方で、公共施設の整備に対する景観への配慮、デザインの質的向上が未だ課題として残っている。国総研では、質の高い公共デザインのさらなる取組を支援することを目的として、先行する事例をもとに、デザイン行政の枠組みを体系的に整理した上で、それぞれの手法の利点や課題、技術的な留意事項等を示した技術資料の作成に取り組んでいる。

その中で、本稿は海外における質の高い公共デザインの取組に着目し、デザイン行政の枠組みやデザイン分野の専門家の継続的な関与等、国内の課題解決に資する内容を調査し、中・長期的な視座をもって我が国へ適用する可能性を視野に入れた質の高いデザインの創出手法を整理する。

2. 調査の視点と対象

過年度までにおいて、国内の22事例を調査した結果、質の高い公共空間を創出する上で、表-1に示す課題が存在することを把握した。これらの課題に対して、国内事例では事業の特性や地方公共団体の状況に応じて、様々なデザイン行政の枠組みのもとで質の高い公共デザインが実現されており、それらは大きく委員会型、アドバイザー型、監理業務委託型、インハウス型、主体間連携まちづくり組織型の5類型に大別できることも把握した(図-1の上部分)。

2020年度は、上記の成果を踏まえて、海外の事例を分析することで、課題解決の方法とデザイン行政の枠組みについて整理した。調査対象とした海外の都市は21事例であり、その中で表-2に示した6事例に

表-1 各事例に共通すると考えられる課題

No.	課題
1	複数の施設や事業の包括的なデザイン
2	地域の課題やビジョンの明確化
3	施工時に至る設計者の継続的な関与
4	適切な発注方式の採用
5	デザインの質を担保できる有識者の確保
6	プログラムを想定した計画・設計
7	運営時に至る取組体制の確保
8	地域による適切な運営・管理
9	運営にかかる財源の確保
10	事業担当者の異動等に伴うノウハウの継承
11	縦割りを超えた統合性の確保
12	庁内の段階的な説明のフォロー
13	小規模事業のフォロー

ついては、ヒアリングを含む詳細調査を実施した。本稿では、具体例としてオランダのロッテルダム市で実施された「Water Square」と「Dakpark Rotterdam」、そしてアメリカのノーマル町における「Uptown Normal Roundabout」の事例に着目して国内事例との比較分析を行った(図-2に3事例の概要を整理した)。

3. 海外事例にみる質の高い公共デザイン

海外の事例を調査した結果、デザイン行政の枠組みは国内事例と大きく異なり、新たにインハウス・チーム編成型とインハウス・ディレクター型の2類型を見出すことができた(図-1の下部分)。この2類型に共通するのは、共に外部の有識者に頼ることなく、行政内部のチームもしくはディレクターが公共空間のデザイン調整を実施している点である。また、デザインの質の担保という点において、プロジェクト途中における行政職員の異動が少なく、一度関わった事業は竣工まで関与することが一般的である。そのため、国内事例で課題として挙げられてい

研究動向・成果

た「デザインの質を担保できる有識者の確保」や「施工時に至る設計者の継続的な関与」、「事業担当者の異動等に伴うノウハウの継承」などが課題として認識されることは少ないことが判明した。

各都市について、オランダのロッテルダム市では、市の担当部局に約600名の技術者（土木・建築・造園の各分野）が所属しているため、設計業務（基本設計・詳細設計）を担うことができる点が大きな特徴である。他方で、アメリカのノーマル町では、プロジェクトのディレクターが対象事業を含む周辺一帯の開発計画におけるデザイン調整を実施し、地域住民や議会との合意形成を得ることができたことで、地域ビジョンの実現に大きく寄与している点が特徴である。

また、海外においても地域住民との合意形成は非常に重要であり、「Uptown Normal Roundabout」のように、マスタープランを作成するまでに数十回の公開会議を実施し、徹底して地域ビジョンの方向性や内容を共有することで地域住民の支持を得ることに努める事例も確認された。

4. 成果のとりまとめ

本調査結果は、有識者に対する意見聴取の結果を踏まえて、過年度に調査した国内事例の内容と共に、デザイン行政の枠組みや質の高い公共デザインを創出する上でのポイントを整理した手引き形式の資料として取りまとめる予定である。

表-2 詳細調査を実施した6事例

No.	所在地（国/都市）	事業名	事業種別
1	オランダ ロッテルダム	Water Square	広場
2	オランダ ロッテルダム	Dakpark Rotterdam	公園
3	ニュージーランド オークランド	Wynyard Quarter	港湾
4	アメリカ シカゴ	Chicago Riverwalk Expansion	水辺空間
5	アメリカ ノーマル	Uptown Normal Roundabout	道路
6	アメリカ ヒューストン	Levy Park	公園

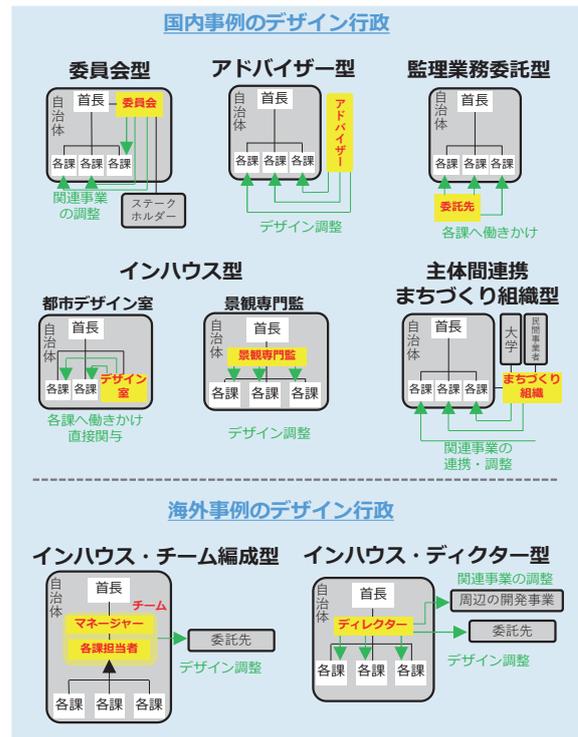


図-1 国内と海外におけるデザイン行政の類型

Water Square（ロッテルダム）	Dakpark Rotterdam（ロッテルダム）	Uptown Normal Roundabout（ノーマル）
事業目的 水害対策＋コミュニティ形成 デザイン行政のタイプ インハウス・チーム編成型 事業実施上の工夫・特徴 ・ピエンナーレの開催による治水事業案の創出 ・プロジェクトマネージャーが関係課を選定して担当者を募ることで実施体制を構築	事業目的 雇用創出＋緑地形成 デザイン行政のタイプ インハウス・チーム編成型 事業実施上の工夫・特徴 ・市内部の有志らによる独自のデザインコンペ案が端緒 ・地元住民らの意見を取り入れて、行政内部のチームが実施設計を実施	事業目的 環境配慮＋コミュニティ形成 デザイン行政のタイプ インハウス・ディレクター型 事業実施上の工夫・特徴 ・数十回の公開会議を経てマスタープランを策定 ・周辺の開発計画を含め、一人のディレクターが計画から竣工までのデザインを管理

図-2 海外3事例の概要（写真はロッテルダム市、ノーマル町より提供）

3. 豊かで暮らしやすい地域・環境を創る研究